

2022 年度

学校自己評価報告書

2023 年 3 月

学校法人八文字学園  
水戸電子専門学校

## ◆2022 年度 学校自己評価について

学校法人八文字学園 水戸電子専門学校は、創立以来、常に時代のニーズを先取りした実務教育を徹底し、また最先端の教育設備を整え、専門的で実践的な人材を社会に送り出してきました。

本校では、未曾有の自然災害や社会変革に対応できる技術・知識を身につけた、真の社会が求める課題対応能力を持つスペシャリストの育成を使命としております。

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、2022 年度学校自己評価を実施し、本校の教職員が更なる教育の質の向上を目的として自校の教育活動その他学校の状況について客観的に評価し、現状の把握、問題点の発見ならびに改善策の検討・実施を行っております。

### 1. 対象期間

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

### 2. 実施方法

#### (1) 自己点検評価委員会による合議制の評価

自己点検評価委員会を設置し、自己点検・自己評価を実施し、改善に取り組んでいます。

学校長をトップとして学校自己評価委員（教職員）により、その規定によって方針を定め、評価を行っております。

#### (2) 参考基準：「専修学校における学校評価ガイドライン」

#### (3) 評価期限：年一回年度末

#### (4) 評価結果の公開：報告書の作成保管およびホームページで公開しております。

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の 11 項目について実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 学校活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

### 4. 自己点検評価の実施

『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、点検評価の項目は、評価項目の達成及び取組状況」11 分類 64 項目で **自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）**です。

自己点検評価委員以下 4 名（学校長代理 渡辺、情報処理学科長 相田、情報メディア学科 石田、情報システム学科 平松）による定量的評価と定性的評価により、自己点検評価委員会にて教員の評価平均（小数第 2 位まで）を計算し、現状および問題点と改善策につきましては、自己点検評価委員の意見を反映させまとめたものです。



## 5. 評価項目の達成及び取り組み状況

◇ 1 教育理念・目的 総合評価 3.61 (昨年 3.56 : +0.05)

教育理念 人の育て方「やってみせ、言って聞かせて、させてみてほめてやらねば人は動かじ」

教育目標 「即戦力となるIT技術者の養成」のための教育の質的保証と向上

重点目標

1. 資格取得体制の充実により合格率を高めることで専門能力の知識や技術など専門性を高める
2. コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を通して社会性を身につける

### 1. 学校の教育目標

「即戦力となるIT技術者の育成」のための教育の質的保証と向上&人間力の育成

### 2. 学科の基本方針重点的目標

□情報システム・情報処理科…①国家資格取得者の増加 ②他校との差別化を図るための新しい授業の推進

<国家資格合格目標> 資料1

	高度+応用	基本	ITパス	午前免除
目標	5	20	40	対象者全員

□情報メディア学科…クリエイティブ職のあらゆる領域や分野を広く浅く学んでいく

<合格目標> 色彩検定、マルチメディア検定、CGクリエイター、家電製品アドバイザー、販売士

### 3. 学習目標

■情報システム・情報処理科…①応用力の育成 ②企画力の向上 ③新しいIT技術の進取と取得

■情報メディア学科…①課題制作 ②専攻スタイルとグループ制作

#### (1) 評価

評価項目		平均評価 (4~1)
ア	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.10
イ	学校における職業教育の特色を示しているか	3.60
ウ	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.40
エ	学校の理念・目的・育成人材像・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3.60
オ	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.50
カ	各学科の基本方針、学習目標、資格の合格目標は達成されているか	3.50

#### (2) 現状および問題点と改善策

- ・即戦力という企業の要請に対し、学生の基本的な社会力の向上を図る必要がある。
- ・「業界のニーズ」と「教育現場」のギャップを調整する必要がある。
- ・コミュニケーションツールの導入により、学生への連絡等手段が整備された。
- ・資格に関し、各教員間の連携により合格率はアップしている。

◇2 学校運営 総合評価 3.45 (昨年 3.30 : +0.15)

(1) 評価

評価項目		平均評価 (4~1)
ア	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.70
イ	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.60
ウ	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか有効に機能しているか	3.40
エ	人事、給与に関する制度等は整備されているか	3.10
オ	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.30
カ	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.30
キ	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.70
ク	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.50

(2) 現状および問題点と改善策

- ・人事組織の刷新がなされ、学校と学園本部の風通しが良くなった。
- ・業務のシステム化、情報化、IT化を図ることが、今後必要である。
- ・組織図に則り、意思決定がなされている。また、グループウェアの活用により業務の効率化が図られている。

◇3 教育活動 総合評価 3.48 (昨年 3.47 : +0.01 )

(1) 評価

評価項目		平均評価 (4~1)
ア	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.60
イ	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.50
ウ	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.50
エ	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.60
オ	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.50
カ	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.50
キ	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.50
ク	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.75
ケ	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.75
コ	資格取得等の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.75
サ	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.20
シ	関連分野における業界等と連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.20
ス	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力育成など、教員の資質向上のための取組が行われているか	3.25
セ	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.20



## (2) 現状および問題点と改善策

- ・時代に合った先端的教育法を検討し、カリキュラムの刷新を行った。
- ・進級・卒業に関しての各教員レベルでの意思統一と調整を図り統一することができている。
- ・教員の高齢化が進んでいる。また、学生数の増加により必要教員数の早急な採用が必要である。

## ◇4 学修成果

総合評価 3.35

(昨年 3.24 : +0.11)

☆就職率 全学科 95.3%

## (1) 評価

評価項目		平均評価 (4~1)
ア	就職率の向上が図られているか	3.50
イ	資格取得率の向上が図られているか	3.75
ウ	退学率の低減が図られているか	3.40
エ	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3.20
オ	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	2.90

## (2) 現状および問題点と改善策

- ・卒業生を招いて、在学中にやるべきことなどの講義を実施している。
- ・資格取得率の更なる向上と、資格に対する学生の意識付けに努める。
- ・就職率は良い。学生の希望と能力の見合った企業への内定をより高める努力は必要。

## ◇5 学生支援

総合評価 3.25

(昨年 3.15 : +0.10)

## (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.60
イ	学生相談に関する体制は整備されているか	3.50
ウ	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.40
エ	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.20
オ	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.20
カ	学生の生活環境への支援は行われているか	3.20
キ	保護者と適切に連携しているか	3.60
ク	卒業生への支援体制はあるか	2.75
ケ	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.00
コ	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.00

## (2) 現状および問題点と改善策

- ・教員の裁量によるところが多かったが、進路相談室を中心とした体系的な学生支援の仕組みづくりができてきている。
- ・修学支援制度を活用し、給付奨学金を受けている学生が増加した。
- ・修学に係わる問題が発生した学生については、必ず父母等を含め面談を実施している。
- ・メンタルケアを実施できる環境を整えている。

◇6 教育環境 総合評価 3.40 (昨年 3.17 : +0.23 )

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.50
イ	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3.20
ウ	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	3.40
エ	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	3.50

(2) 現状および問題点と改善策

- ・実習用設備の増室を行い、学生増に対処している。
- ・館内ネットワークの整備、無線 Lan の導入により、授業効率がアップした。
- ・防災に関する計画書および災害時の行動マニュアルは整備してある。業者等による消防設備等の点検(年2回)や、学生の傷害保険等の整備・加入している。

◇7 学生の受け入れ募集 総合評価 3.53 (昨年 3.50 : +0.03)

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	学生募集活動は、適正に行われているか	3.60
イ	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.60
ウ	学納金は妥当なものとなっているか	3.40

(2) 現状および問題点と改善策

- ・学生募集にあたり、イノベーション(広報上のインパクトの創出やアングルを変える)を改善した。
- ・「学校の現状」「教育内容」を正確に伝える努力により、入学予定者が増加している。
- ・学納金は、社会状況、経済状況を鑑み、学生および保護者の負担感を緩和するなど、個別対応導入している。

◇8 財務 総合評価 3.75 (昨年 3.55 : +0.20)

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.60
イ	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.60
ウ	財務について会計監査が適正に行われているか	3.90
エ	財務情報公開の体制整備はできているか	3.90

(2) 現状および問題点と改善策

- ・財務面は、各教員については、知識不足もあり理解しづらいため、回答が得られにくい。
- ・各種申請を担当している立場では、上記(ア)~(イ)に関し十分成されていると思う。



## ◇9 法令等の遵守

総合評価 3.57

(昨年 3.38 : +0.19)

## (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.50
イ	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3.50
ウ	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.30
エ	自己評価結果を公開しているか	4.00

## (2) 現状および問題点と改善策

- ・個人情報の適正な管理運用に努め、ネット社会の危険性の周知と意識向上の徹底を図っている。

## ◇10 社会貢献・地域貢献

総合評価 3.06

(昨年 3.00 : +0.06)

## (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.10
イ	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.00
ウ	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.10

## (2) 現状および問題点と改善策

- ・積極的にボランティア活動を推進し、地域貢献、社会貢献を図り発信の場として利用していく必要がある。

## ◇基準 11 国際交流

現在、留学生の受け入れは、行っておりません。

## 【総括】

以上が、2023年2月に自己評価委員（教員）を対象に行った自己評価の結果である。

平均総合評価は3.44で、ほぼ適切～やや不適切の間に位置している。

特に我々教職員のレベルでは「3.教育活動 総合評価 3.48」や「4.学修成果 総合評価 3.35」の、評価の更なる向上を図りたいと考えている。

現在、高等教育においては、「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」への転換が求められている。すなわち、教員が「何を教えるか」から、学生が獲得すべきものとして、「何ができるようになるか」という視点に立った、学生の学習成果を明確に示し、それを測定・改善していくことが求められている。

## ●学校レベル

学校レベルでの学習成果のアセスメントは、学校全体が共同して行う計画によって行われる。専門学校には、社会的ニーズに対応し、かつ、国際的に通用性のある学習成果が求められる。そのため、専門学校の質保証システムは学習成果の査定に焦点を置かなければならない。アセスメントは、専門学校が自ら設定した「どのような学習成果を獲得させるのか」、「その学習成果はどのような専門士を養成するのか」について点検・評価し、加えて、学習成果を焦点とした質保証を図るための体制を築いていく必要がある。

●学科レベル

学校が定める学習成果に基づき、学科レベルでの学習成果を設定し査定する。教育課程と学生支援が対象となり、学科長、教員が科目レベルの査定結果を集約し、改善に向けてその見直しを行う。その中において、教育資源と財的資源の優先順位と配分を行う。学科レベルの査定は科目レベルの査定に関係し、かつ連動して機関としての学習成果の達成に寄与する。

●科目レベル

教員は、機関が定める学習成果に基づき、授業を通じて獲得できる学習成果を設定し、学生がそれを獲得したかどうかを査定する。その結果、期待する学習成果を獲得させるための教授方法などの改善を図る。教員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果す義務があることは言うまでもない。





---

学校法人八文字学園 水戸電子専門学校

〒310-0812 茨城県水戸市浜田 2-11-20

---